

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：旭町自治会

開催場所：旭町公民館

開催日時：平成 28 年 3 月 23 日（水）19 時 00 分～21 時 09 分

参加者：自治会側【地域住民の方 37 人】

市側【染谷市長、鈴木地域生活部長、今村こども未来部長、秋山協働推進課課長補佐、駒形秘書政策課係長、鈴木協働推進課主査】

内 容

① 長島旭町自治会長あいさつ

・お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。本来だと町内全体の皆さんに声をかけてやるべきかもしれないが、あまり多くなると会場の都合もあるので、各地区の代表の方と一部の方に出席をいただいている。市の方へは 2、3 団体の方からこんなことを聞きたいというものがあったので、それを伝えてある。私もちょっと気になっていることがあるので、市の方へ質問として事前に出させていただいている。皆さんの方で特別に質問したいことがあったら、質問していただいてもいいと思う。特に細かいところまでの説明はないので、皆さんの意見をお聞きして、後ほど市の方で練っていただいて、実施していただけるのかわからないが、そんな形で今日は進めていきたいと思う。よろしくお願ひしたい。市長さんご苦労様です。

② 市長からの市政報告

■はじめに

・旭町の皆さんを見渡すと、皆さん知っている方がいらっやあって、しかも平成 17 年に次世代育成推進基本計画というのができたときに、私はちょうど子育て支援のボランティア活動をやっていて、一番最初に子育て支援を受け入れていただいたのが、この旭町だった。鈴木吉人会長がいらした時で、本当に、色々とお世話になった。あの頃は、子育て支援というと、子どもが入って、障子を破ったらどうするんだとか、壁が汚れるじゃないかといわれるような時代だった。しかし、10 年ちょっとですよ。今やどこの公民館でも、どこの場所でも子育て支援、若いお母さんの支援は当たり前という時代になった。物事は不思議で、パンパースを知っていますか。紙おむつの。パンパースだって、30 年前はとんでもないと言われた。みんな布おむつがいいといわれて、あんな手抜きする子育てなんて言われたけれど、今や紙おむつは当たり前になった。何事も最初には始める場合には、本当にそれが必要かねえと言われることが多い。しかし、10 年続ければ、まさにそれは時代に必要なものだったとわかる。この島田市でも、10 年、20 年の間にこのような実感できるものがある。

・車座トークは今日で 10 回目。68 の自治会を隈なく回るということで、来年の 2 月か 3 月まで、毎週、68 週間かけて回る、その 10 回目として、この旭町にお邪魔をした。なぜ、車座トークをやっているかということは、この 2 年間はずっと「市長と語る会」ということで、色々なところに出かけて、子育て中の方や、障がい者の方や、色々なところでお話をした。しかし、呼ばれるところが偏っていて、毎年呼んでいただけてところは、毎年呼んでいただくけれども、なかなか行けないという所がある中で、やはり地域が抱える課題を自分の肌で感じて、それを政策に活かしていくこと、それぞれの地域が持っている魅力や資源をしっかりと伝えていただいて、これからの行政に活かしていくこと、そのキャッチボールができることが、私の目指す市政の実現だと思

っている。

■市政運営について

・私が市長になった時に「変えよう島田」というスローガンで市長になった。3度目の春になった。このスローガンとともに、5月にはお約束した30のマニフェストについて、今、その実施状況や成果、継続中なのか実現できたのか、その30項目についての成績表を第三者に作ってもらっている。これは、3年経った5月頃にも発表できたらなと思っている。市長になった時に所信表明ということで、4つのことをお約束した。

・その一つ目が、「公平・公正で、市民の声が届く街をつくること」。これは、右肩上がり、土地も上がって、給料も上がって、人口も増えて、明日は今日よりも良くなるという時代には、行政がどんどんどんどん拡大路線、道路も新しく造っていき、公共施設もどんどん投資ができた。ところが今や人口が減ってきて、高齢化が進んで、少子化が進んで、扶助費とって、福祉、医療、介護にかかる費用が年々増えていくような状況になった時に、やっぱり、市民と行政というのは、相対型で地域の課題と行政が向き合いながら、地域にもお手伝いをいただいて、やれることをしっかりやりながら、この意思の疎通が豊かな街、住んで良かったという街をつくるということだと私は思っている。それで、市民の声が届く、地域と市民と相対型で向き合える市政を実現したいということをお約束した。

・二つ目は、行政のプロセスが、どうやって決めているんだということが分かるような、透明性ということ、図っていきたい。そのために、情報を開示しますよというお話をした。この前の日曜日、13日に、病院の設計業者を決めるプロポーザルとって、提案型の発表会があった。一次審査を通った6社が持ち時間50分で、朝の9時から夕方4時30分まで、各社が目指す病院の提案をしてもらった。どんな病院をつかって、地盤はどういうふうに対処して、コンセプトはどうか、市民の願いが叶う病院をどうつくるかということを発表してもらった。あの提案は、設計業者1社あたりだいたい、2,000万円~3,000万円かけて提案をつくるそう。相当お金をかけて、意気込みを持って来てもらった。6社やって、最終的には内藤建築事務所というところがとったそう。私は審査の委員には入っていないので、結果を聞くというかたちだったが、各社をA、B、C、D、E、Fで言っていたので、設計会社が決まったと言われても、A~Fの会社どの会社なのかを聞いたくらいだが、F社とって、一番最後に提案したところが一位になったと聞いている。決めていくプロセス、市民にとって大事なことは、公開をして決めていくんだと。行政の様々な委員会や審議会も、市民生活に関わることについては、ほとんど傍聴ができるようにしている。文書の開示もしている。こういった形で行政がやっていることを、きちっと市民の皆様がわかるように、チェックできるようにと二つ目の約束としてやっている。

・三つ目は、広域行政を推進します、連携をしてやっていきますというお約束をした。その広域行政だが、今の時代、島田市が単独でできることには限りがある。また、モノもヒトも情報も経済も広い範囲で行き来する時代になっている。そうした中では、この志太の経済圏であったり、中部5市2町のグループであったり、県との関係であったり、県内のほかの市町との関係であったり、こうしたものもしっかり連携しながら、島田にとって利になるものもしっかり稼いでいかななくてはならない。今日も先ほど5時まで、中部の5市2町の観光資源、DMOというが、まさに観光で稼ぐということで、この5市2町がどのように連携できるかという話し合いの場があった。今までは一緒にやろうというお約束だけで、ゆるいつながりで、結果として十分出せなかった

のではないかということで、この5市2町のDMOは、しっかりと決算を出して、チェックして、その成果をはかるということに取り組んでいく。観光に限らず、この4月から、広域消防ということで、3市2町という枠組みで、静岡市消防に島田市、牧之原市、吉田町、川根本町が入っていくというかたちになる。本来は焼津も藤枝も一緒に入ってもらいたかったが、実は、私が市長になる前、島田、藤枝、焼津の3市で消防をというお話し合いがある中で、焼津と藤枝が先に消防本部を立ち上げている。このことから、今すぐに焼津と藤枝が加わるのが難しかった。しかしながら、あと5年でも6年でも、機器の更新の時期があるので、その時には是非この中部が一体となって一つの消防圏になるということを私は願っているし、それができていると思っている。そのことによって、119番を一括して受け付ける、静岡市の駿河消防署に新しい消防の通信機器を配備するが、ここで受け付けて、いっせいに各消防署に指令が流れるので、例えば初倉で大きな事故があると、吉田や牧之原から応援部隊がどっと出る。六合で発生した場合は、静岡市の消防と別に藤枝との連携によってお互いに行き来しているので、こういった連携ができるようになっていく。こうした広域連携は、防災も観光に加えて例えば税の徴収、なかなか払っていただけない方がいて、それがたまたま複数の自治体であれば、連携してやることもできるし、介護保険や健康保険といったものも、大きな枠組みの中で、これから検討していく課題だろうと思っている。そんな形で、平成の大合併とは違う連携というものが広域連携。そして、連携中枢都市圏というものも生まれて、今、中部の5市2町が総務省が唱えるところの連携中枢都市圏構想ということの動きをはじめているところ。こうした広域行政の連携も進めていく。

・四つ目にお約束したのが、財政の健全化に努めてまいりますということ。今、経常収支比率が91%とあって、一般会計の中の9割がすでに予算を作ったときから出所が決まっているというのが島田の財政。要するに、自主財源があって、使えるところが1割しかない。一般の家庭に例えれば、お給料の中の9割が、教育費や家賃、光熱費だとかで出ていってしまっていて、服を買ったり、旅行に行ったりする自由なお金は1割しかないというのと同じ。なかなか公債、借金は毎年ずっと返していくものだし、いっぺんに良くすることはなかなかできない。しかしこの2年ちょっとの間で、20億円以上の公債を減らしているし、公債費比率というものもだいぶ減ってきた。私は節約することがいいことだと思っているわけではない。メリハリをつけるというか、選択と集中、たくさんお金が必要などころにはドンとお金をつけなくてはならない。しかしそうするには、別なところで節約しないと、投資するお金が借金だらけにならないようにするためには、そのメリハリをつけてやっていかなくてはならない。そこのところが、なんでも造れる時代とは変わってきた、時代の行政のあり方だと私は思っているので、この財政の健全化に目途をつけるということも自分たちの子どもや、孫の代にも、自分たちのやりたいことがやれる島田の財政を残していくためには、自分たちの生きている間のことは、自分たちの中で何とかやっという努力が必要だろうと思っているということ。

・この4つをお約束して市長になった。

・しかし、これ以外に自分の役割というものを感している。それは、私が市長になる前もなってからも、私の心の師として仰いでいるのは、森昌也さんといって、昔島田の市長さんだった方。昭和28年に市長になられた。その時「市民の手による市民のための市政」を実現しますとおっしゃった。これはたぶんリンカーンが言った「ガバメント・オブ・ザ・ピープル・バイ・ザ・ピープル・フォー・ザ・ピープル」という言葉を引用されたのではないかと思う。私は、森さんが市長になられてからちょうど60年目に、しかも森さんが亡くなった月に市政を受け継いだ。もう一度「市民の手による市民のための市政」をまさに実現するチャンスと時代が来たと思った。今、こうやって皆さんの前に出かけているのも、まさに地域の課題を伺いながら、やれることを探ってい

く。そしてたくさんのヒントをいただいている。例えば、この前も健康で長生きを目指しているんだったら、健康都市宣言をしたらいいじゃないかと、もっと自分の街をアピールすることを考えろという御意見をいただいた。そのことも、部長会や庁議等で話をして、今、健康都市宣言がいいかどうかは別として、自分たちの街に相応しい、住んでいる人が自信と誇りを持てるような、そういった宣言や特徴、魅力を発信していこうということを今すでに検討を始めている。色々な御意見を伺いながら市民とともに作る街ということをやっている。

・まちづくり支援事業交付金というものをやっている。今までは、1つの団体が一回きりという交付金の制度で、1団体10万円、ものによっては30万円を出していたが、この制度だとイベントのような活動にしか使えなかった。その地域で何か活動をはじめる人が、その活動を育てていけるようにということで、平成28年度から6年間、ホップ・ステップ・ジャンプで交付をすることを決めた。

・島田市緑茶化計画でシティプロモーションをやっている。これはお茶を売るということだけではなくて、緑茶のまち島田ということを市民の自信と誇りにつなげていこうとするもので、実は今日の私の服も緑茶グリーンで、外に行く用事があったので、緑茶グリーンをアピールするためにこのような服を着ている。今年は、緑茶化計画にも300万円ほど市民の皆様が緑茶化計画を推進するお手伝いをしていただけるような場合に、例えば、グラウンドゴルフのゼッケンを緑茶色に統一したり、島田市緑茶化計画というロゴを入れて、いつもそのゼッケンを使うのであれば、そこにも支援をしていきたい。少年団がユニフォームを緑茶色に替えるなら、そこに支援を出したい。さまざまな観光製品等をつくるということであれば、それにもお出ししたいと思っている。これがシティプロモーションのロゴマークだが、このマークでネクタイを作った方がいて、そのネクタイが私のところに届いた。このデータはオープンデータで自由に使っていただいているので、このマークを使って商売してくれてもいい。市民の手による市民のための市政は、ギブ・アンド・テイクでやっていく。まちづくりをしていくことが自分の役割の一つだと思っている。

・市政って、政治って何のためにあるんだろうということを考え続けた3年間でもある。これは政治家を志すときから考えていたことではあるけれども、「政治はここに住む人たちの命を守ること」「暮らしを守ること」これがベース。社会的に弱い立場にいる人たちが、この街で安心して暮らせる、そういう市政をすることが、これが政治の根本、行政の根本ということ、今、確信をもって市政の運営にあたっているところ。ただ、それを実現するためには、医療も介護も福祉も教育も子育て支援も一生懸命やらなければならない。その財源を稼ぐためには、稼ぐ街をつくっていかなければならない。このため、企業誘致も一生懸命やるし、にぎわい交流拠点などの様々なプロジェクトも一生懸命推進していく。これは、本来の目的がそこにあるのではなくて、本当の目的は、この街に住む人たちが、一人ひとりがこの街に住んでいて良かったと思える政治をすること。

・市内を見渡せば、年金だけで暮らしている方が増えている。中には生活保護以下の収入で暮らしている方も多い。高齢者の一人暮らし、家族と一緒にいても、家族は昼間働きに行ってしまうと、昼間もしも何かあったら助けてくれる人がいないというような状況で、暮らしている方もたくさんいる。本当に一人暮らしであれば、色々な福祉のサービスが受けられる。しかし同居している家族がいるとその対象にならないということもある。こういった狭間の事業をどういうふうにしていったらいいんだろうか。あるいは、今、晩婚化、未婚化といったものが増えていて、島田でも女性で初婚の平均年齢が29歳、男性で30歳となっている。一生に一度も結婚しない人が男性で15%となっている。6、7人に一人は一生に一度も結婚しない。女性も30になってから結婚したのでは、3人子どもを産むには大変。40歳位まででしか産めない。そうすると、強制はできないけれども、やっぱり働き方とか、結婚観とか、人生観

を変えていかないと、子どもをたくさん産める世界にはならない。これは単独の市ができることではない。国が日本社会全体が何に価値を置くかということとを皆で考えて変えていかなくてはいけない。今は大学を出たら、先にキャリアをつけることが大事で、最初の10年くらいは、結婚しますだの、子どもを産みますだのってなかなか言えないような、都会なんかはそういう状況に今ある。30代半ばで結婚していない男性は6割を超える。そういう世の中全体を変えていくには、これは市だけではなくてナショナルミニマムと言って、国が政策として、例えば子どもの医療費は国が全部面倒を見ます、保育料もタダにします、そういうようなことは、今は市町が競ってやる時代だけれども、本当は基礎自治体というのは、人口の差が大きいといった中では、本来国がやるべきところで、その後に市が何ができるかということだと思う。

・私は全部タダがいいとは思っていない。薬屋さんに行って、虫刺されの薬を買うよりも、病院に連れて行ったほうが安い。そうするとコンビニのようにたくさん病院に行く人が増えて、また医療費がかかってお医者さんが疲労困憊して、負のスパイラルになってしまう。給食費をタダにすることもそうだし、医療費をタダにすることもそうだけど、私は本当の意味での行政のサービスだとは思っていない。もちろん払えない人にはきちっと市は面倒を見る。医療費は一回500円。給食費は材料だけ。そういったものはご負担をいただいて、その部分を行政は必要なところに予算を付けていくことが必要。給食費をタダにした方がいいという意見は議会からも出ているが、給食費は材料費しかもらっていないが、島田市で言えば年間4億円を超える。この4億円をタダにするなら、どこかで4億円を削らなければならない。4億円あれば高齢者の支援に対しても、子育ての支援に対しても、教育に対してもできることはたくさんある。市民の皆様、こういうことを一つひとつ丁寧にお話をしながら、御理解をいただける行政をつくっていきたいと思っている。これが私にできる2つ目だと思っている。

・やはり社会的に弱い立場にいる方、こういった方への支援、子どもを安心してここで育てられる、子育ての支援、これを力を入れてやっていきたいと思っている。

・今、介護認定にいかない、できるだけ健康で長生きしていただける政策に特化して、島田は様々な施策をうっている。介護認定も、今まで4週間くらいかかるものを、その日のうちに認定が出せるように、様々な要支援の段階だと、わずか20分のチェックシートでその日から使ってもらえるような、サービスを実施している。

・また、一人暮らしの家庭の方たち、高齢者の一人暮らしの方たちには、ご登録いただくと、今、約500人弱の方に登録をしていただいているが、毎週、電話がつながるまで、うちの職員が、毎週毎週電話をかけて、困ったことはないか、体調はどうかということを知っている。もしも何かあれば、30分以内に駆けつけられる体制を行政と民生委員さんの間で築いている。とにかく、地味であってもそういう施策を積み重ねて行くことが、高齢者にとって安心した生活につながる。

・子育て支援の方は、今、私が特に力を入れているのは、待機児童をゼロを目指すこと。実は今年、保育園と放課後児童クラブ、両方とも待機児童が大変増えた。保育園の方は、この1年間でも定員が増えてにもかかわらず、今、法律上に則った待機児童の数は27人いる。しかし、働きたいから子どもを預けたいという方や、入りたいけど保育園に入れないという方を含めると、130人くらいの方が待機児童ということになっている。3歳以上の待機児童はほとんどいない。金谷地区と川根地区はほとんど希望どおり入っている。問題は、ここ旧市内と六合と初倉。平成29年度までに、待機児童ゼロを目指すという

ことで、今、向谷に一箇所決め、もう一箇所は旧市内の一箇所に、0歳から2歳までを預かる、赤ちゃん専門の保育園を造りたいと思っている。行政が市の土地を提供して、民間の方々に建てていただく。今、国の補助率も高いし、また市もバックアップをして、民間の方に開設しやすくするという形で、向谷の方は、定員72人でこのうち、0歳から2歳までの定員が60人、そのきょうだいを12人受け入れるという形。もう一箇所の方も同じくらい、赤ちゃんを60人くらい受け入れられるようにしたいと思っている。こうやって赤ちゃんだけでも120人くらい受け入れられるようにすれば、待機児童はほとんどなくなると思っている。そうすると島田に来れば保育園に入れるということが大きな力になると思っている。こうしたことを何としても29年度中には、今開設する保育園が決まっても、国の申請だとか、許認可の問題があって、建設するのは29年度になってしまう。しかし、今すでに手を打ちながら、29年度に待機児童ゼロを目指してそこをしっかりとやっていきたい。

・もう一点は、皆様にも御協力をいただきたいことだが、放課後児童クラブも待機児童が大変に増えている。昨年の待機児童は4人だった。定員オーバーになっても何とか入れてあげることができたが、夏休み等にまた増えるという課題はあったが、なんとかなっていた。今年も増えていくとは思っていたが、1月だったか2月だったか希望をとって見たところ、125人の待機児童が出た。これは私どもの予想を超える数値であって、働くお母さん達が増えている、共働きでないと生活が難しくなっている方たちも増えている。これまでは1年生から2年生、2年生から3年生という段階で、ご家庭でいられるよというお子さんもいた。ところが皆、1年生から2年生、3年生と（放課後児童クラブ内で）上にあがっていくような時代になった。去年から6年生までみるよということにしているが、まだ5、6年生はほとんどいない。3年生から持ち上がりで4年生が出てくる状況になる。これを解決するために、定員を増やすくらいではとても追いつかない。私の方で、これまでは学校教育施設は学校管理下にあるため、学校の校長先生の賛同がないとなかなか使えなかったが、教育施設は市の施設であるため、私の権限でしっかり管理区分を区切って、行政の側で、放課後児童クラブの部分は責任を負うということをはっきりさせて、空き教室は放課後児童クラブに使うという通達を出した。空き教室のあるところはいい。1小、2小、4小、金谷小は年度内、若しくは夏休み前までには増設ができるかと思っているが、空き教室のないところは、校庭内に建てるということをしたり、老人施設というか、そういった施設で放課後児童クラブをやってくれさるといったところに御協力を求めたり、保育園にも放課後児童クラブをやっていただけないかという御協力を今求めている。自分の保育園を卒業した子どもを預かってもらえないかというお話をしている。例えば、湯日地区では、毎日ではないが、地域のお年寄りが子どもの面倒を見るということで、自主的に自分たちの地区の放課後児童クラブをはじめた。色々な形があると思うが、待機児童は色々な施策で大分減ってきた。まだ残っているという状況である。これはたぶんこれから年々増えていく。桁違いに増えていく可能性がある。

・保育園も幼稚園に入るお子さんがどんどん減ってきていて、保育園に入る子が増えていることを、今後どうするかということで、幼稚園にも認定子ども園になってもらうとか、そういう呼びかけをしている。幼稚園でも夕方まで預かっていただけるような延長保育の要請等もしている。様々な形で親御さんたちが働く環境をつくっていくことをしながら、島田の子育て支援を進めていきたいと思っている。

・三つ目には、私の役割だと思っているのは、若い人たちの世代に、この街を引き継いでいくこと。今、島田の街は、60代、70代、80代の方が、見識と経験、実力がある方々が大勢いらっしゃる。この方たちが元気である間に、50代の若い人たちにまちづくりとか、公共的な様々な事業だとか、行政だとかに関心を持ってもらう。地域に関心を持って地域のことを一緒にやるよという若い人たちをつくっていききたい。そのために、例えば市は、審議会とか委員

会とかこういうものを50歳以下の方を半分入れるようにしている。これをやって変わったことは、割と年配の方が多いと、いろいろ貴重な御意見を言ってもらうが、最後は行政のたてた原案を「それでいいよ」と言うてくださる。若い人が増えたら、付き返される。これじゃだめだからもう一回やり直し。職員も大分鍛えられてきた。次までにもう一度やり直しということが多くなった。ただ若い人たちは、意見もはっきり言うけれども、協力もすごくしてくれて、SNSやツイッター、フェイスブックなどのいろんなもので行政のやっていることを発信してくれたり、事業をやるときにメンバーとして関わってお手伝いしてくれたり、中には実況生中継までしてくれて、瞬時に何回も何回もSNSの上に発信をしていって来て、例えば10周年記念事業のばらの丘でやった、バラと炎のカーニバルなどは、まさにリアルタイムで今こういうふうになっていますという発信をしてくださったり、若い人には若い人の考えや感性や実力はあるんだということを思っている。今、若い人たちがまちづくりに加わっていただけるような、企画を提案していただいて、行政と一緒にやっっていこうと。また、商工会議所青年部、商工会青年部、青年会議所の若手3団体を中心として、川根にも青年団がある。こうした若い人たちのグループがあるので、こういう方々が今までは別々に活動をしてきたけれども、特に青年3団体はこの3月にシェア会議というものを開いて、これから商工会議所の青年部と商工会の青年部と青年会議所と一緒にやれることを探していこうという集まりをしてくれた。大変うれしいと思った。それぞれの団体に個性があって、歴史があって、活動にもそれぞれの縄張りというかあるけれども、目的は同じだから一緒にやろうということをお願いした。こうした若い方たちにしっかりとまちづくりや地域づくりや公共的な行政がかかわることに興味を持っていただくようなこの過程をしっかりとつないでいくことも私の役割だと思って今考えているところ。

・先ほどお話した森昌也先生が退官されるときに、島田は人口も6、7万人の街だが、そこにはキラリと光る国際都市なんだ。ここに住む市民はコスモポリタンなんだということをおっしゃって、私はこれまで人口はどんどん増えて、市民会館、市役所も造り、ネスレや紀文やクノールといった企業も誘致し量的に発展した街をつくってきた。しかし自分がずっと考えていたのは、量的な発展の上に質的な発展を遂げた街が真に暮らしやすい街なんだと。質的な発展とは何かをこれからの人に考えてもらいたいと言って退官された。私はまさに今、拡大、拡散の時代から集約型、成熟型の社会にシフトした今こそ、まさに質的な発展とは何かということを考える、そういう政治が必要なんだと思っている。

・モノから心へ、今日本人はモノを欲しがらない。モノより思い出という宣伝があるくらい、これは成熟した社会の姿だと思っている。今、中国人はたくさんのお金を爆買する。これは昔日本人でもそうだった。世界中に行ってモノを買い漁って金満日本人と言われていた。そういった時代もあって、モノよりも安心だとか安全だとか環境だとか信頼だとか、そういうことが大事だと、そういうところに今日本社会が行き着いた。やはり島田の市政をモノから質へとギアチェンジをするそういった街をつくらなければいけない。こういう話は一人ひとりの皆様に語りかける時間がなくて、目に見えない、こういうことは、目には見えないがとても大事なことで、こうしたことを御理解いただきながら、これから島田市政をやっていくことの一つ一つについて、またお話を進めていきたいと思っている。

■蓬萊橋周辺整備について

・今日、ここに来る前に、蓬萊橋のライトアップの試験点灯を確認してきた。今日の試験は、蓬萊橋を島田市緑茶化計画というシティプロモーションの中で、島田の色を緑茶グリーンと決めたので、蓬萊橋をグリーンに染め上げてライトアップする実験をしていた。金谷の茶まつりの頃に合わせて、蓬萊橋を1週間から10日間くらいライトアップする予定でいるが、その蓬萊橋の周辺に、お休み処や物品販売所がないということで、これまで色々とお話をいただいていた。

・これまで国土交通省の規制があつて、なかなかお休み処も物品販売所も造れないということでしたが、国土交通省も規制緩和ということで、私どもも一生懸命お願いしたことで、ミズベリングということで、地元の協議会を立ち上げて、あそここのところにお休み処と物品販売所を造りたいと思っている。平成28年度に協議会を立ち上げて、できれば28年度内にもお休み処と物品販売所の建設にかかりたい。遅くとも平成29年度には建設したいと思っている。これができる、島田の観光施設の中でも一番リピーターの多いところ。そして一番いろんな方たちが来て「よかった」としみじみ思える空間なので、大事にみんなであそこを育てていきたいと思っている。4月1日から2週間ほどLEDのライトアップをする。緑と桜色と青、この三色が少しずつ移り変わりながら、夕方から9時か10時までの間、ライトアップする。アメリカに本社のある会社が日本に支社をつくってLED事業を本格化させたいという、その一番最初の事業として、この島田の蓬萊橋をライトアップする。是非4月1日以降、皆様にも足を運んでいただきたいと思っている。

■市民会館と市役所の建替えについて

・市民の多くの皆様に御心配をいただいた。17,000人にも及ぶ署名を集めていただいて、市民会館はまさに島田市民にとって誇りの場所。昔はたくさんの芸能人も来たし、観光バスもたくさん来たし、島田に市民会館があるということは我々の誇りの一つであった。県内でも2番目に早くできた市民会館である。老朽化が進み、耐震性がないということで、いよいよ新年度の当初予算に解体の費用をあげた。たぶん4月に入ってから入札をして、その後、5月くらいになると思うが、10月くらいには更地になって、広い駐車場と、イベント広場、街中の災害時における避難場所等にしばらくの間使わせていただきたいと思っている。

・2年間も放置したことで、市民の皆様からは、決断が遅いとか、何を考えているんだとか、壊すなら早く壊せとか、色々とお話をいただいた。私の心の中にあつたのは、市民会館と同時に市役所も築53年経っている。だいぶ老朽化して、雨漏りのしみも、市長室でさえもしみだらけ。耐用年数も過ぎて、あの市役所はどうするんだということがあつた。合併特例債というのは、平成32年まで使えるが、それを使って建てれば財政的にはいくらか助かる。非常に難しい選択だったが、私は今年の春、やはり市役所はもうしばらく使うんだという決断をした。その理由は、病院も合併特例債を使うので、平成32年までにつくらなければならない。今、247億という予算をたてているが、うち50億円くらいは医療機器である。この医療機器は5年で減価償却してしまうので、借金も5年で返済しなければならない。建物は25年とか30年の返済でいいが、最初の5年間で、医療機器と建物の返済が重なる間は結構きつい。それと市役所の建て替えと一緒になるということは、なかなか今の予算の中では厳しい。病院が30億円、40億円コストダウンができるのであれば話は別だが。今はまだそういうはっきりとした数字が出ていないので、やっぱり市役所はしばらくの間後にまわしたい。なぜならば、賑わい交流拠点であるとか、金中

跡地の5.5ha、今日（アイデアコンペの）表彰式を県庁でやってきたが、こうした大きな投資、この街の中も、様々な新しい道路をつくったり、やることはいっぱいある。そうした自主財源の余裕がないということはやっぱりまずい。島田が稼げる街になるために、その財源をつくっていくためには、しばらく市役所はちょっと考えようということにした。市民会館も、色々と御要望はいただいたが、今度市役所を建てるときに、複合施設として建てられるかどうか、その時また市民皆様のご意見を伺いながら考えていけばいいじゃないかと思う。今、1,000人以上入るホールはないが、500人から650人入るホールは3つある。これを使いながら、また島商の吹奏楽のような大きな舞台を必要とするものは、今、焼津の市民会館を使わせていただいている。こういった広域で使うものについては、1回あたり50万円、市が補助するという形で運搬費だとか施設を借りるお金を補助している。こういったことをやりながら、広域で使えるものは、広域で連携して施設等を活用していくことも必要なので、これから様々にこれまでにない柔軟な発想と民間の感覚をもって市政の運営を力強く担っていきたいと思っている。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1-1	<p>■市長さんのお話を聞いていて、財政が厳しいということは分かるが、町内のいきいきクラブにも入って頑張っているが、高齢者の居場所の問題についてお尋ねしたい。旭町は、従来から住んでいる方とマンションやアパートに引っ越してきた転入者で構成されている。このような中、75歳以上の高齢者は400人を超えていると思う。そのうち120人がいきいきクラブに入っているが、平均年齢82歳、定例会には69名が出席している。旭町は、県道や市道の大きな幹線に囲まれている地域で、高齢者が、公民館に集るには、幹線道路沿いを歩いてこなければならぬ。中には、800m、900mの距離を歩かなくてはいけない人もいる。もっと近くで寄れる場所が欲しいと考えている。</p>	<p>●今居場所づくりというものを、既に19箇所を市内につくっている。今、検討をさせていただいているところが3箇所ある。例えば、公民館でなくても、ご自宅を開放する、空き家を活用するなど、どんなところでも居場所づくりはやれる。一番最初にスロープをつくりたいとか、備品が必要だという場合には、1箇所あたり20万円を市が交付金として出している。例えば自分の家でやるよという場合でもいい。週に1日でも2日でも3日でも、自分のところの居間で近くの人に来てということであれば、それも居場所づくりとして認定することなので、皆さんのお近くに、集えるような場所が、個人のお宅でも空き家でも、あればそれはやれる。自由に皆さんだけが来てくださってもいいし、誰かお茶を入れたり、世話をしてくれる人がいれば、なおやりやすいと思うが。居場所づくり事業は、備品の購入、バリアフリーするための補助金1箇所20万円を出しているということになっている。</p>
1-2	<p>■その20万円は年間。</p>	<p>●設備投資というか、備品が必要だよということであれば、そういうものを買うお金として20万円ということ。 ●旭町の昨年12月末の人口は、3,522人、世帯数は1,399世帯、65歳以上の高齢者は823人で、高齢化率は23.4%、島田市の高齢化率は29%なので、旭町は若い街といえる。15歳以下の子どもが552人で、人口の15.7%、市の平均は13.8%なので子どもも多い。旧市内には15歳以下の子どもがほとんどいないところや、高齢化率が高いところもあるので、この旭町は若い方が多くて、65歳以上の方の占める割合は低いと、働く人が多い街だと言える。</p>
2	<p>■田代温泉の伊太和里の湯の付近に、陸上競技場を設置すると</p>	<p>●田代の陸上競技場と言われているところについては、私が就任したときには、</p>

	<p>いう話を聞いたことがあるが、最近そういう話もないが、その後どうなっているのか聞きたい。</p> <p>■蓬萊橋の件で、蓬萊橋周辺促進協議会の中で、再三、国土交通省の方へお願いに行ったが許可が出なかったし、前市長のときも実現できなかったが、市長さんになられてようやく実現するというので、どんなところにどんなものが設置できるのか聞きたい。</p>	<p>それをつくるということだったが、議会の反対もあったが、現在は中止、ストップをしている。あれは、陸上競技場のトラックとして正式なものにはならない。練習場にはなる。かけるお金に対して、どれくらいの利用者があるのかという問題等も含めて、地元の要望もということで、ずっと協議をしている。今月、伊太の方たちとワークショップを開く予定があって、地元の方のどうして欲しいという要望があるようだ。あそこの大変難しいのは、残土を埋め立ててつくったところなので、地下水が出ない。伊太和里の湯までは水はきているが、それを夜中に溜めて、もう一回ポンプアップして、手を洗うくらいなら、水を飲むくらいなら水を出せるが、シャワーやトイレの水は、また下から管を大きくしなければならぬという課題がある。水の問題があって、芝生にすると管理ができない。今、スポーツ施設としては、河川敷に人工芝のサッカー場も整備したし、島田球場も耐震化等の改修、改築工事を実施している。河川敷周辺にそういったスポーツ施設を整備するほうが、市民の皆様にとっては利用しやすく、利用率も上がるのではないかと思っている。田代の場所もある程度、形になっているところなので、いつまでもそのままにしておくことはできない。このため、地元の皆様のご意見も聞きながら、また行政がやるのか、民間を活用した方法でやるのかということも含めながら、28年度に協議をして決めていきたいと考えている。</p> <p>●蓬萊橋周辺については、基本的には左岸に決めているが、左岸のどこの場所と言っても、ある程度限られたところしかないので、そういったところということしかいえないが、1棟とするのか2棟とするのかといった、建物等の規模については、ミズベリングの協議会の中で検討していきたいと思っている。また、この蓬萊橋には、島田の茶振協の方から、そちらの方の予算で、牧之原台地を開拓した中条景昭をこの地に送ったのは勝海舟である。その勝海舟が武士団に宛てた手紙が千葉県で発見され、そういった手紙等も添えて、牧之原台地を見渡して、まさに腕を広げて、励ますしぐさの勝海舟の銅像をあそこに建てたいという話がある。お休み処、物品販売所、勝海舟の銅像といったものが、茶振協の提案と島田市が考えている計画ということになる。</p>
3	<p>■市民会館の件について、自分も署名をした一人だが、島田は文化の街で、森元市長の自宅は市民会館の横にあるが、森元市長は、市民会館が僕のうちの横にあって良かったと言っていた。子どもから大人からお年寄りまで、皆が集う声が聞こえていた。(静岡県の中で) 駅から一番近い市民会館であり、バス、タクシーを使わなくても駅から来れることで、来館者からは喜んでくれている時期があった。一日も早く市民会館を文化の街島田</p>	<p>●文化の街島田、駅から一番近い市民会館だった、一日も早い再建をというお話は私も全く同感である。しかし、市民会館が閉鎖した2年前の直近5年間の利用状況は、本番で使ったのは30日だけ、練習日を含めても50日。その市民会館を建て直そうとすれば、70～80億円かかる。優先順序として、今市民会館が先なのか、学校は昭和40年代の終わりから50年代の初めにかけて建てられているので、これからの10年間で学校の建替えが出てくる。金谷庁舎を耐震性がないので建替えなければならない。市民会館との優先順序をどうするかにつ</p>

	<p>としては建てていただきたい。</p> <p>■河原町にある博物館について、去年、ぴ〜ふぁいぶに刀の催しで若い女性がいっぱい集ったこともあるので、博物館にもそういう物を置いていただきたい。レプリカでも構わないので。島田には昔刀鍛冶がいた。そういう人たちが持っていたものも飾っていただいという話も出た。他の街の真似をしてでも人が集るようなことを文化の街島田に入れていただきたい。</p> <p>■皆さんがぴ〜ふぁいぶから帰るときに、喫茶店、食堂など何もないので、そのまま電車に乗って帰りますという方が多かったです。島田の本通はシャッター通りで淋しいので考えていただきたいことと、昨年5月の広報しまだの中に、10周年記念事業として、二丁目から七丁目まで仏像をおくというのが書いてあったが、宗教的なものがあるって中止と聞いたが、もしそれがダメだったら、蓬萊橋の右岸に七福神がたっているの、あれを一丁目から七丁目まで空いているお店の前に飾らしてもらって、散歩してスタンプを押して、記念品がもらえるなどの取り組みをしたらどうかと思う。</p>	<p>いては、今しばらくの間は、年間30日の利用日数を考えた時には、広域で暫く使ってこともやむを得ないかなということが私の判断したところ。</p> <p>●お手杵の槍のことだと思うが、昔島田に刀鍛冶が大勢いて、名刀だといわれたお手杵の槍をレプリカとして再現したものがお里帰りして、一日2,000人以上の人が来たという話だが、今年、日本3名刀という、お手杵の槍も含めた展覧会を博物館でやりたいと思っている。それは企画をしている。川越街道周辺は、ヒストピア島田という名称をつけて、歴史、文化資源として一体として使っていこうと、今、博物館に専門の職員を置いて企画運営にあたっている。</p> <p>●本通り沿いに置くのは仏像ではなくお地蔵さんで、これは既に事業化されていて、今月お披露目会がある。一丁目から七丁目までそれぞれ違ったお地蔵さんを置くということになっている。</p> <p>●10周年事業は市民の皆様から応募していただいた事業を、審査会で7つを採用させていただいた。そのうちの一つが、このお地蔵さんを商店街に置くというプロジェクトだった。</p>
4-1	<p>■広域のことで、3月の広報しまだに消防、救急の広域化が掲載されていた。島田が静岡に事務委託という形で実施するわけだが、この中で、島田の消防がどういう体制になっていくのかということはない。特に救急に関しては市民に直結する話になるので、(市民が)メリット、デメリットを知っておく必要があるのではないかと。当初、静岡の消防ヘリの話は出ていたが、旧市内で消防ヘリということはない。山間部では必要だとは思いますが、また、広域化に伴う近隣市町との連携はどうなのかということはない。(広報しまだに)載っていないので、そういうところは市民も知りたいところであると思う。そういうところの情報公開、発信をしていただきたい。</p>	<p>●広域化のメリットは、限られた人数の中で、出動する人員を増やすことができる。これまで班体制がとれていなかったところが班体制がとれるようになる。救急、消防を専門化して隊員を養成することができる。例えば、初倉分遣所で救急車が出動している場合に、初倉地域で救急車の要請があった場合、六合や島田消防署から出動することになっているが、広域化により吉田から来たほうが早いので、市民の皆様にとっても利便性が高まることになる。市民の皆様からは、静岡で救急、消防の要請を受けて本当に地理とかが分かるのかというお話をいただくが、私も現場の通信室を見てきたが、大型のモニターがあって、地図があって、どこから救急、消防要請が来ているのか一目で分かるようになっていて、それが全消防署に一斉に指令が出るようになっている。場所がわからないとかということはない。消防署員は交流はあるものの、基本的には今の島田の署員が引き続き配置されることになる。また資機材については、特殊災害に対応したものが配備される。島田だけでは整備できない資機材が持てるようになる。95万人規模の消防ができるのは全国で初めてなので、総務省でも力を入れて、国の予算で新たな機器を配備することができた。災害時の本部を立ち上げることができる車両や、災害現場で光のないようなところで、ずっと現場を照らしておける投光機の車両、原子力災害時のスクリーニングや除染などにおいて、人間を車両に乗せたまま、シャワーをかけたり、服を切って、除染</p>

		<p>して避難所に搬送するといった訓練も、まさにこれまでできなかったような人材育成や訓練をしている。特殊災害、化学薬品とかテロ、海難事故、山の中の事故、大規模な火災、そういったものに対応できる訓練や、その資機材があるということでは、今回の消防の広域化というのは、市民にとって安心・安全をより確実なものにしていくものであると考えている。課題については、静岡市の消防になるため、指揮権について、大きな災害が起こったときの指揮権は、静岡市長にあるのか、島田市長にあるのかといったことについては、かなり議論をした。大規模災害時についての指揮権はそれぞれの首長が持つということで合意をしている。</p> <p>また、これまでになかった業務として、沿岸部で津波や大きな災害があったときには、島田が近隣の市として対応をしていくということになる。</p> <p>デメリットを全て消しての合意形成なので、広域化できたのは良かったと思っている。</p>
4-2	■デジタル化の関係は。	<p>●デジタル化は既に整備されていて、2月に静岡のシステムへの切り替えを終了している。機能しているかのチェックも終了している。</p>
5	<p>■農地が宅地化されているが、そのためには、農業委員会での許可をもらってから宅地化するが、造成するとき、コンクリートで周りを囲んで、土留めして造成する。農地と土地が隣接する場合、接する箇所については草が生えてしまうので、三面側溝やU字溝を施工する補助などができないか。宅地化が進んでもその周りが草だらけでは環境に悪いと思う。</p>	<p>●農振のかかっているところはなかなか宅地化が難しいのが現状。もともと白地であったとかでないと農地を宅地化のできない現実もある。宅地になった部分と接する側溝の部分に草が生えるということで、草が生える場所の所有者にお願いするしかないが、宅地と農地の境の草の話は色々なところを回っているが、初めてこういうお話をいただいた。</p> <p>(長島自治会長から回答)</p> <p>●何年か前から、自治会の方も市へお願いしている。最近宅地造成されたところは、水路の土手敷のところを舗装してくれるようになった。一丁目でも二丁目でもきれいにしてくれている。宅地造成するときに、地主さんと業者と市と相談して、後で管理しやすいように事前に協議をしていただいている。</p>
6	<p>■消防、救急の広域化はしっかりとした広域化を進めていってほしいことと、一般行政についても、医療、組合などを含めて共同化が必要ではないかと思う。それぞれの自治体が独立して行政を進めるよりも共同化することによって、もっといいものができてくるのではないか。3市の取り組みも含めて共同化についてお話をいただきたい。</p>	<p>●消防、救急の広域化については、様々な課題があったが、例えば、装備も職員の給与も全く違う中で、これを一つにするということの難しさもあったが、差がある部分については、最初の10年に限り静岡市が持つところまで約束をして、トータルで経費の削減が図れるというところの交渉をした結果の広域化である。私は、正直言って、静岡県が1消防本部でもいいと思っている。警察と同じように。今、伊豆半島でもなかなか一つになれない中であって、首長同士が一生懸命議論した結果、この広域化が実現するという点では、一つの成果であると思っているし、5、6年経過すると、志太の消防も装備を更新しなければいけない時期が来る。この更新時期にあわせて、こちらのほうに入っていただくというお話をしてみたいと思っている。</p>

●一般行政の様々なことを共同化することによって志太の3市の連携がもっと図れるのではないかということで、まさにその通り。これは、病院の連携もその一つ。病院の連携は、本当に難しい課題があるということはこの3年間でよく分かってきた。しかしこのままでもいいと思っている首長はいないと思う。皆分かっているけど今できない。これは、お医者様の考えもあるし、病院経営も島田は3市の中では経営はいい。一般会計からの繰出金も少ないし、借金も少ないし、内部留保もある。色々と経営に差がある。そういったものを一つにしていくことの難しさがある。また、機能別の連携とあって、得意分野を補い合おうという、皆が総合診療科目を持つのではなくて。また、機材や薬剤を共同購入することで安く仕入れることができるのではないかと。薬剤は、先生によって使う薬が違うので、難しいのではないかと思う。今、何から連携できるかというお話をしている段階である。

●市民病院の建替えはラストチャンスだと思っている。建設の話は、平成19年からずっとあった。平成19年の計画のとおりに進んでいけば、25年にはできていた。しかし、21年、23年、25年の街中移転の話まで色々紆余曲折があった。実際築35年で建物の外観は大丈夫だけれども、中の配管等が大分痛んでいて、いきなり天井から水が漏れたり、メンテナンスしていても起こるとというのが現状。市民の命のよりどころとなる市民病院はまったなしで建替えをしなければならない。

●島田は市民病院以外に入院する病院がなくて、診療所の先生方も高齢化していて、島田の医師会に41人のお医者様がいますが、息子さんや娘さんが後継ぎとして帰ってきてくれない。みんな息子さんや娘さんはお医者さんなんだけれども、がんセンターで働いているよとか、大学病院にいるよとかいう人ばかりで、あと5年経ったら往診に来てくれる先生も少なくなってしまう。そういう現状がある。このため、4月から「24時間訪問看護ステーション」をはじめ。今、健康づくり課でやっている訪問看護と病院でやっている訪問看護をあわせて、一体にして「24時間訪問看護ステーション」を病院の北側に健診センターがあるが、そこの3階に「24時間訪問看護ステーション」をつくる。お医者様の指示書というものに基づいて、看護師が8人体制で皆様のお宅にたとえ真夜中でも何って医療処置をするということになる。

●国は2025年を目指して、大幅な医療改革をやるようとしている。国の医療費は毎年1兆円ずつ増えてきている。これでは国の財政はもたない。国も1,100兆円の借金があって、公共事業の補助金、交付金は平成10年代の3分の1くらいまで金額を減らされて、県も同じように減らされて、公共事業が圧縮されていくような時代にあって、これからまだまだ医療費や介護や子育てにお金がかか

るようになってきた時に、医療費を減らすことを打ち出している。その削減のために、2025年という、団塊の世代の人たちが全員後期高齢者になる年、この2025年を目指して、大きな医療制度改革を実は既にはじめている。

その医療制度改革というのは、施設から在宅へ、病院から在宅へという流れ。これまでよりも入院日数を短く、施設に入っている負担が増えていく状況の中で、できるだけ在宅で医療を受けてもらって、悪くなったら病院に入ってもらおうといった流れ。介護保険制度が始まってから、在宅から施設へという流れの中で、介護度や認知度が進んだら施設に入れることは仕方がないと皆が思う時代になっている。これを在宅へ戻すのは大変なこと。訪問看護ステーションだけでなく、様々な施策をうっていき、今地域の見守りが大事な時代になった。家の中にも熱中症になるといふときがあつて、保健師たちにとにかく、一人暮らしの御高齢の方にしっかりエアコンを使うようにと一生懸命指示を出した。ところが行ってみると、設定が暖房になっていたり、設定温度が32度になっていたり、中にはエアコンのスイッチを入れたらテレビがついたなんて人もいたりして、行政が見守るには限界がある。地域の中で、そういう方たちに、一日一回でも目を掛けてくれる人、見守ってくださる人、こういう体制ができていくと、本当に暮らしやすい街になっていく。

●市民病院は療養病床を35床をなくすことについて、このことについては、議会からもずいぶん御質問をいただいた。島田は病院が一つしかないのに療養病床をなくすのかという質問。しかし市民病院の療養病床は、よそから療養のために入院してくる方はいない。長期で入院されている方は1～2人で、この方たちはこれからも引き続き入院してもらおう。これまでどんな使われ方をしているかという、次の病院が見つかるまでの中継ぎの機能としてこの療養病床を使ってきた。これからは、次のところが決まるまでは、一般病床の中で診ていくことにする。その背景には、今、市民病院は患者さん7人に対して看護師が1人という、7：1ということになっている。ところがこれからは、病床ごとに7：1をみていきますよという国の方針が出ている。療養病床は7：1にはならず、14：1とか15：1という対応になる。厚生労働省は、ここの病院は急性期の病院だね、ここは慢性期の病院、ここは療養の病院というふうに病院まるごと機能を分けていこうという方針を今もっている。現実には、これは難しいと思っている。今は、病院の中で患者さんが病棟を移って入院を続けている。厚生労働省の案は患者さんを急性期を抜いたら慢性期の病院に移るといふモデルを持っている。しかし、御高齢の患者さんは、悪いところは一つではない。胃が悪くても、整形外科にもかかっているし、耳も悪いなど、いろんなところにかかっている。まるごと移すというわけにはいかないだろうと私は思

		<p>っているので、まだまだ見直しはされていくとは思いますが、病棟ごとの7:1ということが徹底されていく中、市民病院は急性期の救急病院としての選択をした。</p>
7	<p>■3年前に5小のプールが夏休みに使えない時があった。他の学校のプールに行くように言われた。PTAに聞いたら、市が予算がないから他の学校のプールに行くように言われて、せっかく5小にプールがありながら、他の学校のプールに入りに行くのはイヤと行って行っていなかった時期があった。色々な方をお願いして、ようやく夏休みにプールを使えるようになった。この先、市の方で予算がないということで、夏休みのプールを5小だけ開放されないということがあったら、同じ子どもとして不公平だと思うので、その点をお聞きしたい。</p> <p>■5小は子どもが少ないので、1学年1クラスが多い。先生の言うことを聞かない子もいて先生が大変になっている。支援員はどういう場合に配置されるのかと思う。</p>	<p>●予算がないからプールを開放できなかったのではないと思う。管理上のことやプールの修理など、詳細はわからないがそういうことで開放していなかったと思う。子どもの環境で不平等になることはしていないので、なぜできなかったのかは担当課に聞いてお答えする。【検討事項1】</p> <p>●学校の支援員については、平成27年度では島田市単独で71人雇って25の小中学校に配置している。これは、発達障害のお子さんを見ることや、お勉強をみる支援、ちょっと落ちつきのない子のところに行くとか、様々であるが、私になってから人数は増やしてきている。1校平均3~4人となるが、配置する学級はその学校の判断によるものだが、支援員はつけている。これからも支援員の充実には力を入れていきたいと考えている。</p>
8	<p>■30代に結婚して、仕事を続けて、子どもも3人産んでいるが、子どもが保育園にいた時には、2人っ子ということが言われていた。そのような保育園でも今は1人っ子が多くなっている。平成29年度に向谷に赤ちゃんの保育所を造るということだが、子どもは異年齢の中で育てるのがいいと思うので、1人っ子が多い中で、異年齢の子と関わるのが少なくなることは、子どもにとってプラスではないと思う。</p> <p>■学校給食について、パンにマーガリンを付けるが、マーガリンは食べるプラスチックと言われているのに、学校給食で出ることになったことに驚いた。付けなければいいのだが、先生の目線が付けなければならぬような感じだと子どもは言っている。給食が残ることによって先生にとってマイナスになるのか分からないが、必要以上に食べれる子は、食べさせられちゃうことがあるようだ。市販品、加工品というか、オムレツがよくお弁当に入っている平たい黄色いオムレツが出て、すごくまずくて、学校給食は手作りじゃないのと思った。親として子どもに食べさせたくないものが学校給食になって出るようになってきているので、子どもの身体をつくるものなのに、学校給食の内容が悲しい。</p> <p>■ガーデンプレイスできて、側溝がコンクリートになって、</p>	<p>●島田の場合、先ほど未婚率や晩婚化の話をしたが、結婚している人は平均2人以上子どもを産んでいる。そういう意味では、子育てしやすい環境はあるだろうと思っている。赤ちゃん専用の保育園というのは、それぞれの保育園は普通の保育園を運営しているところなので、きょうだいがいれば、きょうだいとその保育園で、お母さんが同じ保育園に迎えに来れるようにするし、年齢がくれば、また異年齢と一緒にいるところに入れる。一つの保育園がやっているのだから、赤ちゃんのスペースがあるが、3歳になったら異年齢の中の保育園に入ることになる。異年齢の子と一緒にいるということになる。(年長児が赤ちゃんに触れ合う場合は)それは行ったり来たりにはなるかもしれないがそれはできると思う。年長さんがいる場合には園庭も欲しいが、赤ちゃんであれば、ヨチヨチ歩きができるくらいのスペースがあればいいので、そういうことを考えながらやっていくが、今、待機児童が多いのは赤ちゃんであり、3歳過ぎたら待機児童はいないので、赤ちゃんを預けられるということクリアすることと、島田の場合には今年から育休退園をやめたことで、待機児童はこれからも増えていくだろうということもあって、異年齢の子との交流はすごく大事なことだと思っているので、園同士の中でやると思うが、まずスペースをつくらなくてはいけない。また、赤ちゃんの場合には、3人に1人の保育師を付けなければいけないので、保育師の確保が一番の課題となる。</p> <p>●学校給食は、国の基準や様々な基準に則ったものを出している。マーガリンが学校給食に出ているのも事実。学校給食では、食べなければいけないとか食</p>

	<p>昨年春、蛇や蛙が死んでいて、それを父が片付けることがあったが、前は、そこでお花を摘んだり子どもがしていたので、子どもの居場所がまた一つ減って、自然に対する教育という意味でも、何でもかんでもコンクリートになってしまうのは、子どもが日々自然に触れられる場所が減っていると感じている。</p>	<p>べなさいという指導はしていない。少食の子は始めからご飯を少なめによそって、おかずも減らす。確かに残食率は調べているが、残食率をゼロを目指しなさいということではないし、ノルマであったり競っているものでもない。マーガリンが食べられないのであれば、最初から返してくれればいい。（なかなか返せる雰囲気でないようだ。）</p> <p>●この話は、学校給食課に伝えておく。</p> <p>●冷凍食品を使っているということについては、6,300食をつくられているので、一つずつオムレツを作るのは難しい話だと思う。中にはそういうものもあるかもしれないが、基本は手作りである。時々、そのようなものが出るのはメニューのバラエティの一つであると考えている。今の学校給食は、メニューが選択ができる日もあるし、大津の給食センターのほうは、アレルギーを除くための専門の部署と、専門の調理員を置いて、見た目は皆と同じという給食も作っている。皆が同じ給食を楽しめるようにという配慮はしている。</p> <p>お母さんが言っても解決しなかったですか？（解決しなかった。）それでは教育委員会に伝えておく。【検討事項2】</p> <p>●島田は、子供が遊ぶ場としては、まで全国的に見ても自然が残っている。いいところかなと思っている。遊ぶ場が減っていくとかという現実もあるかもしれないが、命の勉強をさせたり、あらゆることが子どもにとって学習であるし、全てそのようなものを排除した方がいいとは思わないし、その子のバランスなのかなと私自身は思っている。</p>
9	<p>■秋になると大きな剪定をした枝が川に流れてくる。日清紡の下を通っている川。この川が分岐するところでつかえてしまう。上流の方だとは思いますが、1mくらいのもものが流れてくることがある。こういう不法投棄は常識で考えればできないはずだが、面倒くさいから流してしまうと思う。市でPRすれば止まると思う。異臭もするので困っているという話は聞くが、根本的な解決にはなっていない。</p> <p>■大規模地震が来たときに、大井川の上流のダムの上は大丈夫なのか。これは専門家でないとは分からないかもしれないが、一つの疑問として質問する。</p> <p>■勝海舟の銅像を建てることはいいことだと思うが、知らない人が多いと思うので、しっかりPRしていただきたい。</p>	<p>●剪定枝の件は、自治会連合会（自治推進委員連絡会議）での集りもあるので、そういった中で、私からもお話をさせていただく。同時に広報の方でもお知らせできるか担当課の方に連絡してみる。川に枝を流すことはモラルの問題だと思うし、考え方はいろいろあるのでご批判されるかもしれないが、横井の通りの街路樹は、鉛筆みたいになっている。枝もみんな取り払われて、一本の鉛筆になって、てっぺんもちょん切られている。私はそれを見るたびに市民力の象徴だと言っている。いらないのだったらいらないようにすればいい。こういうことを市民の皆さんが議論すべきことだと思う。街路樹を剪定するお金がいいのか、葉っぱが落ちる10日間、シルバー人材センターなどを使って落ち葉を掃くような、そういう事業がいいのか。市民の皆様が自分の周りの環境をどう思うのかということ。こういう話をすると、あんたはそういう木が家の前にならだと言う方もいらっしゃる。何年間にいっぺんは、木の活力を維持するため、強剪定をするんだと説明を受けたが、2年目も3年目も強剪定をしている。菊と地元の皆さんの強い要望でそうしていると。こういうこともこれからのまちづくり考えるときに市民の皆様に議論していただきたい。例えば名古屋に行く</p>

と、銀杏の木がものすごく葉っぱを落として道中にカサカサカサカ風が吹けば飛ばし、でも誰もそれに対して何も言わない。そこに住む人たちの住民の気持ち、感情なんだろうと思う。確かにそこに住んでいる人は、雨どいが詰まったり、滑って転んだり、落ち葉掃きが大変だったり、確かにそのお気持ちはよくわかる。

- 国土交通省に問い合わせはしている。最大震度であっても、ダムに亀裂が入るとか、決壊するという想定は一切していないという返事があった。
- 勝海舟の銅像は、その下に説明書をつける。台座の上に立った勝海舟となるので、3.8mくらいの大きなものになるということなので、説明書を読んでいただくと同時にPRにも努めていきたいと考えている。

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子



⑤検討事項に対する対応（報告）

質疑応答番号 検討事項番号	検討内容（市長の発言）	市からの回答（対応状況）
7 検討事項 1	<p>●予算がないからプールを開放できなかったのではないと思う。管理上のことやプールの修理など、詳細はわからないがそういうことで開放していなかったと思う。子どもの環境で不平等になることはしていないので、なぜできなかったのかは担当課に聞いてお答えする。【検討事項 1】</p>	<p>■夏休み期間の学校施設プール開放事業は、市内 8 校の学校プールと、金谷プールの合計 9 施設を利用し開放事業を実施しております。島五小のプール開放は平成 25 年度から実施しております。今後につきましても、例年通り開放事業を実施する予定です。</p>
8 検討事項 2	<p>●学校給食は、国の基準や様々な基準に則ったものを出している。マーガリンが学校給食に出ているのも事実。学校給食では、食べなければいけないとか食べなさいという指導はしていない。少食の子は始めからご飯を少なめによそって、おかずも減らす。確かに残食率は調べているが、残食率をゼロを目指しなさいということではないし、ノルマであったり競っているものでもない。マーガリンが食べられないのであれば、最初から返してくれればいい。（なかなか返せる雰囲気でないようだ。）</p> <p>●この話は、学校給食課に伝えておく。</p> <p>●冷凍食品を使っているということについては、6,300 食をつくっているの、一つずつオムレツを作るのは難しい話だと思う。中にはそういうものもあるかもしれないが、基本は手作りである。時々、そのようなものが出るのはメニューのバラエティの一つであると考えている。今の学校給食は、メニューが選択ができる日もあるし、大津の給食センターのほうは、アレルギーを除くための専門の部署と、専門の調理員を置いて、見た目は皆と同じという給食も作っている。皆が同じ給食を楽しめるようにという配慮はしている。お母さんが言っても解決しなかったですか？（解決しなかった。）それでは教育委員会に伝えておく。【検討事項 2】</p>	<p>■マーガリンについて 学校給食では、1 年間に 180 回の給食があり、このうち 105 回は米飯給食、17 回が麺給食、58 回がパン給食となっております。この 58 回のパン給食のうち、マーガリンの使用は年間 1～2 回で、使用するマーガリンについては、国の基準に沿ったものを使用しております。また、パンの製造に使用しているマーガリンについて、県給食会は低トランス脂肪酸のものを使用しております。</p> <p>■オムレツについて 島田市内の児童生徒への給食は、毎日約 8,600 食（平成 27 年度）調理しており、オムレツをはじめ、すべてを手作りで賄うことは作業量、時間的に困難です。そのため、冷凍食品を使用することもあります。「物資選定委員会」を開催し、栄養教諭、学校栄養職員、調理員、PTA、教師、学校給食課職員が試食をし、食材の味や、安全性等確かめ決定しております。今回のご意見につきましては、この「物資選定委員会」の中で報告させていただきます。</p> <p>■学校給食の食事量について 学校給食では、児童生徒にとって必要な栄養量を、基準に沿って提供しています。島田市では、子供たちが毎日の給食を個人の体格や体調に合わせて、自己の判断により食べられる量を決め、食べるよう指導しております。今後も、児童・生徒の心身の健全な発達に資するため、適切な栄養の摂取と、安全安心な学校給食の提供ができるよう、努めてまいります。</p>